

研究室だより

・大学院文学研究科社会学専攻が博士後期課程を加えて、フルサイズの研究科になり1年が経ちました。後期課程には7人が、前期課程にも7人が入学して大学院は総勢30人の大所帯になりました。また、今年3月には11人の修士が誕生しました。新たに修士（社会学）となった諸君の修士論文題目は後頁にあります。これらの成果は『同志社社会学研究』第3号に掲載されることでしょうか。なお、今年4月には前期課程10人、後期課程は9人が入学予定です。

・昨年12月13日(土)に、同志社社会学研究学会総会が行われました。総会では会長の三澤先生のご挨拶の後、鯉坂先生から活動報告、学生委員の中嶋君から会計報告があった後、役員を選出が行われ、学生の委員が交代し、新たに荒井、大淵、粟谷君が専任されました。教員は、三沢先生、森川先生、鯉坂先生が委員を継続します。卒業生の委員としては、丸木恵祐（金城学院大学）先生に引き続きお願いしています。総会の後、仏教大学の加藤信孝先生から「ヴェーバー・チベット論註」、森川眞規雄先生から「香港返還と華人社会の変化」と題する興味深い記念講演がありました。夕刻から行われた懇親会には40名を超える人々が参加し、遅くまで親交を暖めました。

・修士課程の創設と同時に社会学科社会福祉専攻から社会学専攻に移っていただいた井垣章二先生が今年3月末に定年退任されます。先生は45年の長きにわたって同志社での教育と研究に懸命なご努力を捧げてこられました。改めまして先生のご努力に尊敬と感謝を捧げますと同時に、今後ともご健康でわれわれ後進をご指導下さいますよう、お願い申し上げます。この4月より井垣先生は同志社大学名誉教授になられます。

・森川眞規雄先生が今年1月から8月まで香港中文大学の客員教授として出向されています。また、今年4月から春学期中、カナダのヨーク大学からDavid. Ioan Davies先生が客員教授として同志社にこられ、学部と博士前期課程で講義を担当されます。（服部）

97年度 修士論文題目

年度	氏名	論文題名	指導教員（主査）
94	堀 恭子	医療における二者関係論についての一考察 —患者の観点を中心として—	井垣 章二
94	吉田 純子	マグレブ移民の「統合」に関する一考察 —エスニック・バウンダリー—存続の問題—	森川 眞規雄
95	金谷 亮介	相互作用様式と社会的現実 —集合行動論的視点からのロバート・エズラ・パーク—	森川 眞規雄
95	河口 充勇	戦後香港における中国人移民・エスニシティ論の変遷	森川 眞規雄
96	平井 順	企業の活動と責任の帰属	服部 民夫
96	小林 大祐	経路依存から普遍へ —日本における消費社会の移行過程についての—考察	服部 民夫
96	中嶋 道博	地域情報化におけるインターネット利用の現状と可能性	井垣 章二
96	奥村 隆宏	中絶とプライバシー	天木 志保美
96	安居 哲也	現代日本における偏差値本位の教育システムと 青年期社会化に関する研究 —予備校生のライフドキュメント(生活記録)を事例研究として—	井垣 章二
96	矢澤 寛茂	セクシュアリティ:主体の彼岸としての『身体』の成立	三沢 謙一
96	湯浅 俊郎	都市同郷団体の生成と変容 —石川県小松市・加賀市出身者(加賀浴友会)を事例にして—	鱒坂 学